

ま と め

衛星による移動体通信の需要は、ますます拡大の傾向にあり、利用者も大ユーザから小ユーザへと、更に個人ユーザへと移りつつある。このような背景のもとに ETS-V/EMSS 計画は、当初 AMES 計画として小型船舶、航空機等に対する無線通信サービスの基本技術の確立を目指して、昭和52年研究開発に着手した。その後の情勢の変化により、NASDA による 550 kg 級の静止三軸衛星バスの開発、電波研究所の移動体衛星通信システムの基本技術研究開発、運輸省電子航法研究所の衛星航法援助システム技術の研究が三者一体となり、共同で ETS-V のミッション開発とそれによる実験研究を行うこととなった。10年を経て、ようやく昭和62年8月27日上記ミッションを搭載した ETS-V の打上げが実現した。これに合せて、鋭意、海岸/航空地球局を始め各種移動実験局を関係機関メーカーの協力を得て、開発整備し、実験の開始を待つばかりになった。関係された諸

林 理三雄（鹿島支所）

先輩をはじめ担当者のこれまでの努力が開花するのも間近かである。

本実験は、世界でも例を見ない陸海空すべてを含んだ統合移動体衛星通信に関する研究であり、その成果が今後の情報化社会に与えるであろう影響も大きい。また、充分生かされ社会の進展に寄与するであろうことが期待される。

本特集号は、ETS-V/EMSS 実験システムについて詳細に述べたものである。本特集号に詳述された成果が、将来の衛星と陸海空での統合移動体衛星通信システムのための基本技術確立の一助として活用されれば幸いである。

ETS-V/EMSS 計画策定、搭載ミッションの開発、地上実験施設の整備に当たっては、所内各関係者はもちろん、通信政策局、宇宙開発事業団、電子航法研究所等及び各メーカーの方々の御協力による点が多い。ここに深く感謝する次第であります。

